



米原市の太鼓踊り

伊吹山奉納太鼓踊保存会
副会長 高橋 順之

はじめに —伊吹山麓の太鼓踊り—



伊吹山奉納太鼓踊り（平成17年10月2日）

農耕を中心とする日本の社会において、水不足をひきおこす旱魃^{かんばつ}は最大の悩みです。そのため雨乞い行事は集落の重要な共同祈願で、さまざまな方法で行われてきました。山上で火を焚く。唄や踊りで神意を慰め雨を乞う。水神が住む聖地を汚し、神を怒らせて雨を降らせる。神社に籠もり降雨を祈る。聖地から水をもらってくるなどがあり、効果がなければ2種以上の儀礼を重複し、繰り返し長期にわたって行われ、時には、他村と連携して広域化することもありました。特に太鼓踊りが行われるようになったことは、共同化・広域化^{ありやう}・風流化を促すことになったといわれています。太鼓や鉦を激しく打ち鳴らすと雷鳴に似ることから、雨の神が錯覚して雨を降らせるというわけです。

太鼓踊りが多く伝承されている滋賀県の中でも、米原市の伊吹山麓地域は特にその分布が濃密で、現在でも9つの地区で太鼓踊りが行われています。かつては山麓地域のほとん

どの集落で踊られていたようで、踊り歌や記録、太鼓などが各地に残されています。

また、米原市に隣接する岐阜県揖斐・不破両郡でも同様の太鼓踊りが伝えられています。その数は1市5町（1町5村が合併した揖斐川町および大垣市の旧不破郡域を含む）で25ヵ所と多く、これより東では伝承されていないことから、伊吹山地を囲む東西の山麓が太鼓踊りの密集地であることがわかります。関ヶ原町の太鼓踊りの歌詞や構成は、米原市の太鼓踊りと類似していますが、揖斐郡内の太鼓踊りは「鎌倉踊り」とも呼ばれ、衣装や背負い物などにより違和感があります。しかし、旧坂内村^{さかうち}では太鼓踊りが「江州から伝わった」といわれていることや、大正時代まで、滋賀県側の村々と太鼓の貸し借りをしていたことなど、峠道を介して活発な交流があり、伊吹山を中心とした「太鼓踊文化圏」としてのまとまりを見ることができます。

今回は、米原市に伝わる太鼓踊りについて紹介したいと思います。



春照八幡神社太鼓踊り（平成16年9月23日）

伊吹山奉納太鼓踊り(県選択無形民俗文化財)

伊吹山の登山口に鎮座する三之宮神社(米原市上野)の秋祭り(10月第1日曜日)で5年に1度踊られます。三之宮神社は、伊夫岐神社(米原市伊吹)とともに伊吹山信仰にとって重要な神社で、中世には伊吹山中に展開した伊吹四ヶ寺が共同で社務を執り行っています。また、山頂を目指す山岳修験「伊吹山禪定」の一の宿としての役割を果たしており、昔も今も伊吹登山の出発点に位置しています。

上野の太鼓踊りの始まりを記録した史料は残っていませんが、同じ伊吹山麓の伊夫岐神社には、江戸時代の元禄3年(1690)に踊られた記録があり、後述する春照の伝承などから、17世紀末頃には踊られていたと考えられます。長い日照りが続いたとき、山麓の農民は三之宮神社に参集し、早朝から夕暮れまで雨乞い祈願をしました。また、伊吹山中の悉地院・松尾寺・小高野・高弥などへ参籠し、ときには氏子全員が白旗・松明を持って伊吹山頂の弥勒菩薩前の広場に集まって、柴を一束宛て刈り取って積み上げ、火を焚いて野良着のまま太鼓や鉦を打ち鳴らし、片足を高く上げて「雷踊り」を踊り降雨を祈ったといひます(千束焚)。さらに、美濃(岐阜県)側の戸谷の岩屋や鈴岡神社まで足を運んでいます。なお、この大松明は、平成7年の奉納から上野独特の役方として復活しました。



大松明(上野)

秋、願いがかなって豊作になると、花笠に緋色の弓小

手やカルサンで着飾った「返礼の踊り」が踊られました。現在伝承されているのは、この返礼の踊りです。大正13年の早魃で踊られ、昭和22年の日照りで復興されたあと中断していましたが、昭和42年10月の奉納で、古式豊かな郷土芸能として伝承すべく「伊吹山奉納太鼓踊り」と命名、保存会が結成され、今日まで継承されています。

踊りは、前日夜の「足揃え」、当日昼間の「道行き」と「奉納(本踊り)」、夜の「笠破り」が行われます。本踊りは、上野会館(旧惣蔵)に集合して1時間かけて神社までの道を練りこんだあと、三之宮神社で「返礼踊り」と「綾の踊り」が奉納されます。平成17年の奉納では、太鼓41名、鉦4名、笛26名、音頭19名、側踊り26名、ふくべ振り80名、その他10名の総勢210名が出場しています。

上野と春照の太鼓踊りは、総勢約200名を超える大規模なものです。市内の他の太鼓踊りも30~60人の踊り手を数えます。多人数であることが米原市の太鼓踊りの特徴でもあります。

春照八幡神社太鼓踊り 附奴振り(県選択無形民俗文化財)

春照八幡神社太鼓踊り 附奴振り(県選択無形民俗文化財)

米原市春照は、北国脇往還沿いを開けた宿場町です。太鼓踊りは、宿場の面影を残す町並みの北に鎮座する八幡神社の秋祭り(9月23日)に5年ごとに奉納されます。



奴振り(春照)



大うちわ(春照)

踊りは江戸時代の寛文11年(1671)、長い日照りに苦勞した農民が始めたと伝えられ、元来は野良着のままに踊ったようです。一般に、深刻で緊急を要する雨乞いは野良着で踊り、願いかなった秋祭りの返礼踊りは着飾って行われました。また、江戸時代には大原庄の村々と総鎮守の岡神社(米原市間田)に踊りを奉納しています。現在、道行きのときに常夜灯のところで岡神社を遥拝し一踊りするのはそのなごりです。

その後戦争で中断し、昭和22年に踊られたあと再び途絶えていましたが、昭和40年に復活させることが協議会で決定され、青年団の協力で18年ぶりに奉納されました。

踊りは、前夜に秋葉神社へ奉納される「足揃え」が行われ、当日の本踊りは、秋葉神社のお旅所を出発して八幡神社まで旧街道を行列する「道行き」と、八幡神社境内で奉納される「返礼踊り・振り踊り」で構成されます。夜には「笠破り」が行われます。

行列の中で異彩を放つのは、法印・山伏・大うちわでいかにも雨乞い踊りにふさわしい役方です。法印・山伏は山野に伏して山の靈力を身につけ、超人的技能を身につけたものです。山伏のホラ貝は水と関係の深い楽器であり、巨大なうちわは風を起し雨を呼ぶという想定です。

また、奴振りは、北国脇往還を行き来する大名行列の華麗さ、いなせな奴振りを模倣したものと伝えられ、この華麗な奴振りが道行きの先頭を練るのも、この太鼓踊りの特徴です。奴振りがいつから取り入れられたかわかりませんが、明治26年の記録に配役が記されているので、これ以前にさかのぼるようです。また、奴さんの胸や腕に花札の図案や龍虎、美人画、役者絵などの絵を描くのも近隣の奴振りにはないもので、昭和42年から描かれて



大野木豊年太鼓踊り(平成17年10月9日)

います。風流化され大規模な祭礼行事となった「返礼踊り」には、毎回工夫と変容が加えられてきたようです。

大野木豊年太鼓踊り(県選択無形民俗文化財)

大野木は米原市の東端にあり、伊吹山南麓の弥高川扇状地の扇端に位置する農村集落です。踊りは毎年10月10日前後の午後八相宮に奉納されます。

寛政2年(1791)に雨乞いをし、翌年に返礼踊りを行ったのが最も古い記録です。しかし、周辺村落に比べて一段と水が乏しい大野木でも、17世紀後半には行われていたと考えられています。ここも昭和22年に踊られたあと途絶えていましたが、昭和40年に保存会ができ、翌年の春祭りに豊年を祈願して奉納されて「大野木豊年太鼓踊り」として復活しました。

かつての雨乞いは八相宮で宮籠りをして、雨乞い踊りを含めて祈願の種類や日程が決められました。踊りを繰り返しても降雨がないときは、集落背後の大峰山にある大峰神社や大滝神社に踊りが奉納されました。さらに、今須(岐阜県関ヶ原町)の雨壺さんや遠く越前(福井県)と美濃国境の夜叉ヶ池まで行くこともあったようです。

大正2年の返礼踊りでは、一丈ほどの竹を



朝日太鼓踊り（平成17年10月10日）

割って短冊や造花を飾りつけた円錐形のホーロー（幌）を踊り子が背負いました。これは、藤川（米原市）にもあり岐阜県の太鼓踊りにつながるものとして注目できます。また、挟み箱や毛槍を持った奴振り、行者やふくべ振り、大団扇を背負う「扇踊り」など、春照との共通性も見られます。

大原学区の太鼓踊り

旧山東町北部の大原学区では、姉川とその分水の出雲井を用水源とする16ヵ村（旧伊吹町春照・高番、旧浅井町相撲庭を含む）の共同意識が高く、用水管理や雨乞いには連帯してあたってきました。岡神社はこの大原荘の総鎮守で、合同して行う雨乞いや返礼踊りは、村々によって歌詞や踊りの展開に相違があるものの同系列のものといえます。踊り順は年によって変わりましたが、岡神社のお膝元である間田は、踊り先陣の特権がありました。昭和22年の踊り以降、朝日地区だけが絶えることなく続き、国選択無形民俗文化財に指定されています。また、井之口太鼓踊（市指定文化財）のほか、近年、間田・天満・夫馬・烏脇でも太鼓踊りが復活されました。

おわりに 一太鼓踊りの伝承活動一

太鼓踊りを今日まで伝承し、次代に伝えるためには、地域全体の理解と協力、踊り手や指導者の熱意と献身的努力が必要です。いず



岡神社

れの地域でも、本番まで数ヶ月にわたる練習を行い、踊り手を育成します。この中で、子どもたちは地域の祭りと向き合い、何人もの大人と接します。太鼓踊りは、単に伝統芸能の伝承だけではなく、青少年の育成、世代間交流、地域の一体感の醸成、ふるさとへの誇りなど、ひとつの踊りが多くのことを地域にもたらしてくれます。

参考文献

伊吹山奉納太鼓踊保存会『滋賀県選択無形民俗文化財調査報告 伊



復元された大野木のホーロー

吹山奉納太鼓踊り』1992

山東町教育委員会『滋賀県選択無形民俗文化財調査報告 大野木豊年太鼓踊』1994

市立長浜城歴史博物館『近江の太鼓踊り一竜神信仰と雨乞い踊り一』2000

春照太鼓踊保存会『滋賀県選択無形民俗文化財調査報告 春照八幡神社太鼓踊り附奴振り』2004

滋賀文化財教室シリーズ No.220号

発行年月日 2006年3月10日
編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL(077)548-9780 FAX(077)543-1525